

## 分担研究報告書

### 1. チーム医療推進分担研究班

分担研究者 氏名 佐々木 均・長崎大学病院 教授・薬剤部長

#### A. 研究目的

チーム医療とは「多種多様な医療スタッフが、各々の高い専門性を前提とし、目的と情報を共有し、業務を分担するとともに互いに連携・補完し合い、患者の状況に的確に対応した医療を提供すること」（平成22年4月30日付厚生労働省医政局長通知、前文）と定義され、質の高い医療の実現と、快適な職場環境の形成や効率的な業務運営に結びつく取り組みに期待が寄せられている。日本病院薬剤師会によるチーム医療や地域医療の先進事例が紹介されているが、学術的見地から解析・評価されているとは言い難い。そこで日本医療薬学会を通じ、病院におけるチーム医療の先進的事例を収集するとともに、薬学教育6年制を踏まえて薬剤師に求められている業務について必要な調査研究を行い、薬剤師が担うチーム医療のアウトカムを評価する。

#### B. 研究方法

本研究は、日本医療薬学会の中にチーム医療の調査研究班を組織し、平成25年度より3年間に亘り実施する。平成27年度は、前年度に引き続き医師、薬剤師等で事前に作成・合意されたプロトコールに基づく薬物治療管理(Protocol Based Pharmacotherapy Management, PBPM)の先進的事例の収集を行うとともに、チーム医療の進展や地域医療の拡充に向けた実践的方法論の確立を目指して、多職種によるチーム医療の基本と

なるPBPM導入マニュアルを作成した。

研究班では、2回の班会議を開催し、特にPBPMにフォーカスを絞り、薬剤師の担うチーム医療によるアウトカム評価、医療の質の向上、安全性の改善、経済性、医療従事者の負担軽減など、科学的・客観的なアウトカム評価を試みた。さらに、各先進事例におけるPBPM導入過程を踏まえて、標準的な手順や必要項目を示した総論と代表事例を示した各論からなるPBPM導入マニュアルを作成した。平成28年2月11日にはシンポジウムを開催し、5つの先進事例とPBPM導入マニュアル案を報告し、チーム医療における薬剤師の役割について総合的に考察した。

#### C. 研究結果

- 1)「薬剤師が担うチーム医療と地域医療の調査とアウトカムの評価研究」シンポジウム(5-49ページに記載)
- 2)プロトコールに基づく薬物治療管理(PBPM)導入マニュアル(総論)(50-109ページに記載)

#### D. 健康危険情報

特に記載すべきことなし。

#### E. 研究発表

特に記載すべきことなし。

#### F. 知的財産権の出願・登録状況

特に記載すべきことなし

## 1)「薬剤師が担うチーム医療と地域医療の調査とアウトカムの評価研究」シンポジウム

平成 28 年 2 月 11 日（木・祝）に日本薬学会長井記念館長井記念ホールにおいて、研究代表者の安原真人（東京医科歯科大学）を実行委員長として、シンポジウムを開催した。

当日は、病院薬剤師、薬局薬剤師、薬学教員、行政関係者、薬学生など、全国各地から 155 名の参加者があった。

開会にあたり、実行委員長より厚生労働科学研究費補助金による本研究の経過と今回のシンポジウムの趣旨説明があった。本研究の目的は、チーム医療の進展や地域医療の拡充に向けて、薬剤師の担う役割を明確にし、求められる専門性を活かすための実践的方法論を確立することである。チーム医療推進分担研究班（分担研究者：佐々木均教授）では、プロトコールに基づく薬物治療管理、PBPM にフォーカスを絞り、初年度の平成 25 年度は先行事例の収集、平成 26 年度はチーム医療によるアウトカム評価、薬剤師がチーム医療にかかわることによりどのようなアウトカムが得られるのか、医療の質の向上、安全性の改善、経済性、医療従事者の負担軽減など、科学的・客観的なアウトカム評価を試みた。研究最終年度の平成 27 年度は、PBPM の先行事例の収集を重ねると共に、多くの施設で PBPM を実施可能とするための実践的方法論の構築を目指して、PBPM 導入マニュアルの作成を試みた。在宅・地域医療推進分担研究班では、初年度にかかりつけ薬局機

能をもった在宅医療提供薬局を推進するための新たな基準として、薬局の求められる機能とあるべき姿を報告し、次年度は、この報告の中で言及された地域包括ケアシステムの中でセルフメディケーションの推進に資する薬局のあり方に焦点を絞り、調査検討を行った。最終年度は二つの分担研究班を立ち上げ、プロトコール担当班（分担研究者：稲垣中教授）では精神科医療機関と調剤薬局の連携に関する実証的研究が進行中であり、研修担当班（分担研究者：長谷川洋一教授）では健康サポート薬局に係る研修に関する内容及び第三者による確認等について検討中であることが紹介された。

講演 1 では、名古屋大学医学部附属病院の山田清文先生に「医療スタッフの協働・連携で作成したプロトコールに基づく薬剤師による処方入力支援と薬物治療管理」についてご講演いただいた。整形外科病棟における内服薬・TDM 検査オーダ代行入力、血液内科病棟における化学療法パス代行入力、PBPM に基づく抗凝固療法の薬物治療管理という 3 種類の具体例を通して、院内での合意形成の手順を踏んで PBPM を導入・実施することが医師の負担軽減、調剤業務の効率化、より安全で有効な薬物療法の提供につながることが示された。

講演 2 では、三重大学医学部附属病院の奥田真弘先生に「HIV 外来における医師・薬剤師協働プロトコールに基づいた薬物治療管理」についてご講演いただいた。HIV

外来担当医師と薬剤師が協議の上決定した HIV 外来の PBPM を運用することにより、HIV-RNA 量の低下または検出限界を維持する患者割合が増加し、薬剤の不適切使用による入院加療の割合が減少し、医療の質の向上が実証された。また、抗 MRSA 薬の PBPM 実施により、ガイドラインに基づく治療の適正化が進んだことが示された。

講演 3 では、鳴門山上病院の賀勢泰子先生に「療養病棟における入院時処方支援プロトコール」についてご講演いただいた。理事長、病院長の承認のもとに入院時処方支援のプロトコールを作成した経緯が紹介され、入院前から薬剤師が関与し PBPM を実践することが安全で効果的な薬物療法の継続および医師の負担軽減に有用であり、クリニカルインジケータの変化に反映されることが示された。

講演 4 では、ファルメディコ株式会社の狭間研至先生に、「地域医療における PBPM の現状と可能性」についてご講演いただいた。モノからヒトへと薬剤師の業務対象の中心をシフトさせ、立地依存から人材依存へと調剤薬局の革新が提案された。医師と連携して薬剤師が在宅訪問を行うことにより、患者 1 人当たりの薬剤数を減少させ後発品率を上昇させると共に、患者の薬剤費を減少させ、在宅患者の入院頻度を減ずる可能性があることが示された。

講演 5 では、望星薬局の原和夫先生に「地域の医師と薬剤師の連携による禁煙治療プロトコール～笠間モデルの構築～」についてご講演いただいた。地域行政機関の協力を得て、医療機関、地域薬剤師会、大学が連携して禁煙治療の薬物治療管理プロトコール

ールを作成し実践した経緯が紹介された。薬剤師の介入により、禁煙開始から 12 週間後の禁煙率は 70% と高値を示し、プロトコールに則った薬剤師の支援が効果的であることが示された。

講演 6 では、長崎大学病院の佐々木均先生に「プロトコールに基づく薬物治療管理 (PBPM) の導入プロセスと留意点」についてご講演いただいた。米国では州法に基づき医師と薬剤師が特定の患者に対する治療に関し契約を締結し、合意されたプロトコールに基づき薬剤師による薬物治療を管理すること (Collaborative Drug Therapy Management, CDTM) が行われている。一方、日本では制度が異なるため、CDTM を直接導入することは不可能であり、医師、薬剤師等により事前に作成・合意されたプロトコールに基づき、専門的知見の活用を通じて、患者の薬物治療管理を行う PBPM が推奨される。PBPM の実践においては、医療上の問題点の抽出、解決策の検討、プロトコールの作成、各職種の役割分担、分担規則の決定、情報の共有化など、多段階的・多角的なステップを考慮する必要がある。PBPM 導入の標準的な手順を整理し、参考とすべきガイドラインや病院や地域で導入する PBPM のチェックリストなどを研究班が取りまとめた PBPM 導入マニュアルの概要が紹介された。

各講演に対して、参加者から活発な質疑や意見交換がもたれ、PBPM に対する高い関心がうかがわれた。最後に、日本病院薬剤師会会長の北田光一先生から閉会挨拶があり、3 時間余のシンポジウムを閉会した。

<プログラム>

開催日時 2016年2月11日(木・祝) 13時00分~16時10分

会場 日本薬学会 長井記念ホール  
座長

川上純一(浜松医科大学医学部附属病院)

橋田 亨(神戸市立医療センター中央市民病院)

開会挨拶・趣旨説明

安原真人(東京医科歯科大学)

講演1 医療スタッフの協働・連携で作成したプロトコールに基づく薬剤師による処方入力支援と薬物治療管理

山田清文(名古屋大学医学部附属病院)

講演2 HIV 外来における医師・薬剤師協働プロトコールに基づいた薬物治療管理

奥田真弘(三重大学医学部附属病院)

講演3 療養病棟における入院時処方支援プロトコール

賀勢泰子(鳴門山上病院)

座長

土屋文人(日本病院薬剤師会)

舟越亮寛(亀田総合病院)

講演4 地域医療におけるPBPMの現状と可能性

狭間研至(ファルメディコ株式会社)

講演5 地域の医師と薬剤師の連携による禁煙治療プロトコール~笠間モデルの構築~

~

原 和夫(望星薬局)

講演6 プロトコールに基づく薬物治療管理(PBPM)の導入プロセスと留意点

佐々木 均(長崎大学病院)

閉会挨拶

北田 光一(日本病院薬剤師会)

